

様式第1の2 (第1条の6関係)

(1)危険物 仮貯蔵 承認申請書
仮取扱い

(3) 殿		(2)年 月 日	
		申請者(4) 住所 (電話) 氏名	
(5) 危険物の 所有者、管理者 又は占有者	住所	電話 ()	
	氏名		
仮貯蔵・仮取扱い の場所	所在地 ・ 名称	(6)	
危険物の類、品名及び最大数量		(7)	指定数量 の倍数 (8) 倍
仮貯蔵・仮取扱いの方法		(9)	
仮貯蔵・仮取扱いの期間		(10)年 月 日から 年 月 日まで 日間	
管理の状況 (消火設備の設置状況を含む)		(11)	
(12) 現場管理責任者	住所	緊急連絡先 ()	
	氏名	【危険物取扱者免状：有(種類：)・無】	
仮貯蔵・仮取扱いの理由及び 期間経過後の処理		(13)	
その他必要事項		(14)	
※ 受付欄		※ 経過欄	※ 手数料欄
		承認年月日 承認番号	

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 法人にあっては、その名称、代表者氏名及び主たる事務所の所在地を記入すること。
3 案内図、配置図、平面図、構造図その他関係書類を添付すること。
4 ※印の欄は、記入しないこと。

【記入要領】

項目	記入要領
(1) 申請区分	仮貯蔵・仮取扱いのいずれか該当する方を○で囲むか、該当しない方を二重取消線で消します。
(2) 日付	仮貯蔵等の承認申請日を記入します。
(3) あて先	仮貯蔵・仮取扱いを実施する場所を所管する消防長または消防署長名を記入します。
(4) 申請者	仮貯蔵等の行為を行う者または当該仮貯蔵等に対して管理責任がある者（法人の場合は、その所在地と代表者）の住所・電話番号・氏名とします。 ただし、請負工事に伴い仮貯蔵等が必要な場合は、仮貯蔵等の行為に対して管理責任を負う発注者・請負業者のいずれかを申請者としてとします。
(5) 危険物の所有者等	仮貯蔵・仮取扱いに係る危険物を所有、管理または占有する者の住所・電話番号・氏名を記入します。
(6) 実施場所	仮貯蔵等を行う場所の所在地と名称を記入します。
(7) 危険物の類・品名及び最大数量	仮貯蔵等を行う危険物の類・品名・数量を記載します。 品名が多いときは、別紙に記入します。 屋外で仮貯蔵等が行われる場合には、奈良県広域消防組合危険物審査基準で、屋外における仮貯蔵等を行うことのできる危険物の類、品名の確認が必要です。 （例）「第4類第2石油類（灯油）1,500 L」仮貯蔵等を行う危険物の最大倍数を記入します。
(8) 指定数量の倍数	貯蔵または取扱う危険物の最大倍数を記入します。 小数点以下第3位以下を切り捨てた値とし、小数点以下第2位までを記入します。 品名の異なる危険物を複数貯蔵または取扱う場合は、品名ごとに合算した数量を、それぞれの危険物の指定数量で除し、小数点第5位以下を切り捨て合計した後、小数点第3位以下を切り捨て、小数点以下第2位までを記入します。 小数点以下第3位を切り捨てると倍数が整数となる場合は、適用される法令基準が変わらないよう、次により端数の処理を行います。 10.004倍⇒10.00倍としないで10.01倍とします。
(9) 貯蔵取扱方法	仮貯蔵等の具体的な方法を簡潔に記入します。 （例）A棟北側のタンク（○L）にタンクローリーから受入れ後、水で希釈（○%）する。
(10) 期間	仮貯蔵等を行う期間を記入します。 開始日を含めて10日以内であることを確認してください。
(11) 管理の状況	標識等の掲示・バリケードの設置・消火設備の設置等・危険物の管理方法・監視・消火体制を具体的に記入します。 消火設備は、危険物の性質・数量に応じて、その能力単位が所要数値に達するように設置する必要があります。 （例）「第5種消火設備ABC粉末消火器10型2本」
(12) 現場管理責任者	現場管理責任者の住所・氏名・緊急連絡先を記入します。 また、当該管理責任者の危険物取扱者免状の有無・免状の区分を記入します。 危険物取扱者免状を有する場合は、危険物取扱者免状の写しの添付が必要です。
(13) 仮貯蔵等を行う理由及び期間経過後処理	仮貯蔵等を行う理由と期間経過後の処理について簡潔に記入します。 （例）「臨時ヘリポートの燃料を貯蔵するため」「変圧器絶縁油を入れ替えるため」 「抜き取った危険物を移動タンク貯蔵所で移送する」
(14) その他必要事項	その他必要事項を記入します。 （例）「仮貯蔵等承認済及び火気厳禁の掲示板を見やすい箇所に設置する。」